

教育課題検討委員会 第8回 議事概要（公開用）

平成 29 年 10 月 17 日(火) 19:00～20:00

町総合福祉センター 3 階集会室

出席者： 検討委員全員出席、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第8回教育課題検討委員会を開催いたします。はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。

（教育長）

第7回の議題は、2つありまして、「アンケート調査の実施概要」について、また、「アンケート調査の設問等」について話し合いました。まず、実施概要についてですが、保護者向けのアンケートは保育所・幼稚園・小学校から配布回収するということに進めようということになりました。また、住民向けのアンケートについては、郵送で配付回収する、ということになりました。アンケートの対象人数についても、色々検討されたのですが、小学生までの子どもの保護者については、予定より人数を増やして、1, 427名、住民の方々に対しては573名ということで、就学前の子どもがいる家庭は全て意見を聞くことになり、そういうことから派生して人数の調整がされました。全体の数は、2, 000名ということで変わらずということです。

アンケートについては、無事終わることができまして、どういう状況だったかということについては、後で報告させてもらいますので、よろしく願います。以上です。

（課長補佐）

それでは、教育課題検討委員会の会長に司会をお願いしたいと思います。

（会長）

はい、承知いたしました。今回も引続き、本町の教育課題について、議論を進めて行きたいと思います。忌憚のないご意見を、よろしくお願いいたします。議事に入ります前に、第7回の議事録の要約が出来上がっておりますので、お目を通していただきたいと思います。よろしいでしょうか。確認ですけれど、この議事録は公表を前提としておりますので、そのつもりでお願いいたします。では、もしお気づきになることが何かありましたら、事務局までご連絡をいただければと思います。

それでは、議事に入ってもよろしいでしょうか。それでは、議題1 アンケート調査集計結果の中間報告について事務局より説明をいただきたいと思います。

■ 事務局説明

(会長)

ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問はありますか。

先ほどの説明で、委員の皆さまの周囲で、アンケートについての議論があったのかを聞かせて欲しいということでしたが、それもあるようでしたら、ここでご発言いただきたいと思います。

この、教育委員会に寄せられた数件の内容はどのようなものでしたか。

(主任主事)

設問を読んで、回答するにあたっての質問ばかりでした。具体的に言いますと、こちらは小学生以下のお子さんがいるということで、対象に選定させていただいたのですが「うちは幼稚園ではなく、保育所に通わせているのですが、幼稚園の設問に答えても構いませんか。」であるとか、ご高齢の方でしたが、アンケートの最後まで読んでいただいたうえで「うちは子どもも成人しているので回答することを遠慮したいです」と言われて、わざわざ教育委員会まで返しに来られた方もいました。

(会長)

特に反対意見だとか、そういうことを言われる方はいなかったということですね。いかがでしょうか、お近くで、何かをお聞きになったとかは。

(教育長)

保育所はどうでしたか。

(委員)

保育所も、保護者からは何も聞かなかったですね。以前の、通学区域見直しのときは、ものすごく言われたのですが、今回はなかったですね。

(委員)

幼稚園もなかったです。

(会長)

P T Aの方は、いかがでしたでしょうか。

(委員)

アンケートが来ていたということぐらいですね。

(委員)

校区見直しのような、具体的に差し迫った表現が感じられなかったということでしょうね。

(会長)

ということで、この件については、これでよろしいでしょうか。それでは、次の議題2 基本方針案の骨子について、お願いできればと思います。

■ 事務局説明

(会長)

はい、それではご質問いただきたいと思いますが、まず、構成については、この形で良いかどうかお考えいただければと思います。

(委員)

具体的な部分は、幼稚園と小学校に分けて始まっていくのですが、その前段の導入部分が要るのかなと思いました。子どもを取り巻く状況とか、幼稚園や小学校を取り巻く大まかな状況とか、それらがあって個々に検討をする必要があるので、いきなり幼稚園の検討に入ってしまうと、なぜ幼稚園の検討をするのか、総論的なものを前置きに入れてから、幼稚園、小学校と入った方がよいのかと思います。

(会長)

ありがとうございます。それで言えば「はじめに」という部分で、お書きいただけるのかと思います。目次の前にありますが、どうでしょうか、この部分を検討委員会の委員長としての挨拶でなく、委員会として、先ほど仰っていただいた内容にしてくださいよいのかと思います。

(委員)

それであれば、むしろ委員会の名前ではなくして、総論をここで書くという手法もあります。

(会長)

それが良いと思いますね。日付も入っていますが、ここには必要ない気がしますね。今、仰っていただいたようなかたちにしていくということでもよろしいでしょうか。なぜ、検討するのかということ「はじめに」という部分に、書いていくということですね。全体の背景や経緯を。

(教育長)

諮問した内容を、少しふくらませて、プラスして書いていくということで、そのようにさせてもらいたいと思います。

(委員)

報告書として、起承転結の起の部分になるのかな、と。

(会長)

それでは、本文の方に移ります。幼稚園、小学校と続いていきますが、内容はどうかというところで、何かありますでしょうか。

(委員)

この検討委員会の概要と資料の順番は、入れ替えるほうが思いますね。

(会長)

この資料に、アンケートの結果だけ記すのではなく、分析や考察は、もちろんされますよね。それが、本文の内容と矛盾が起きないかということもしっかり見ないといけません。それはアンケートの分析が進んでからになるのでしょうか。ただ、結果だけ、数字だけというのは、いけないかのなかとと思いますね。そうすると、提言がむしろ後の方が良いのかという気もします、アンケートを単に資料編とするので、この資料の中で、アンケートの前の空白のページは、どんなものを書いていく予定ですか。

(主任主事)

学校教育法の小学校では12学級以上が適正規模ですという、根拠法令などを入れようかな、と。

(委員)

基準とか通達とかも入れたほうが良いですね。

(会長)

冒頭のほうで触れるという手もあると思いますが、資料で記載するということがうすね。それとやはり、アンケート調査結果は重要ですから、単に資料と扱って良いものか、と。

(委員)

当然、内容のエッセンスとして、幼稚園小学校の現状であるとかに反映はすべきだろうと思います。全体として、分析したものは、最後に資料編としてまとめるべきな

のかなと思います。

(会長)

その他について、ご意見いただきますけど、詳細については、まだまだ詰めていただきますけど、内容についてはこれまでの検討委員会の議論がまとめられているなど私は感じましたが。皆さま何かお気づきの点があれば、仰っていただきたいと思いますが、まずは幼稚園から。

(委員)

この答申は、ゆくゆくは保護者であるとか、町民の方の目に触れることになるのでしょうか。

(会長)

これが、どの範囲に配付されるのでしょうか、教育長お願いできますか。

(教育長)

当然、町民の方にお示ししないといけないと思っています。

(会長)

具体的に、どういうかたちですか。

(教育長)

私としては、ホームページか何かで、一般公開するような開示の仕方になるのかな、と思っています。

(会長)

PDFファイル化して見られるようにするということですね。各家庭に配布するとかいうところまでは、お考えになっていないということですか。

(教育長)

それも、今から、検討していかななくてはならないところだと思いますが、今のところは。

(会長)

そうですね、今後の検討課題にする余地はありますね。

(委員)

たぶん、この答申を受けて、教育委員会で決定された幼稚園・小学校のあり方に関する基本方針は、概要版などで各家庭に配布するとかになるのかもしれませんが、この検討委員会の意見を各家庭に配布というところは、他の自治体でもあまりないと思います。答申は、この報告書をホームページや来庁者が紙文書でも閲覧できるようにして、公開する。

(会長)

では、戻りますが、幼稚園の内容について、お気づきのところありませんでしょうか。小学校もあれば、どうぞ仰っていただいて。

すみません、内容ではないのですが、グラフがありますよね。グラフのタイトルは、下にあるのが一般になっていますので、お願いできればと思います。また、表にタイトルが入っていないところがありますので、こちらの方も。

またお読みいただく中で、おありになるかもしれませんが、今のところは無いということに理解したいと思います。

それでは、議題3 目標年次にまいりたいと思います。

■ 事務局説明

(会長)

はい、ありがとうございます。最後にまとめてありますが、この答申に盛り込む「いくつに」「いつまでに」「どこに」などという中のひとつ、「いつまでに」というのを、今日決めていただきたいという説明が、事務局からありましたが、皆さまのご意見をいただきます。もう、明確に「何年」と出すということですね。どうでしょうか。

幼稚園は、白方の現状を見ると、もう始めなくてはならないということも感じる部分がありますが。少しでも早く、ということは皆さまも同じ考えかと思いますが。

(委員)

目標年次ということですが、たぶん資料で示していただいたことを吟味できていないのですが、第5回の資料を見直しますと、幼稚園2020年、小学校2022年というのが目途のひとつに上がっていましたが、人口予測など、不確定な部分があったとしてもね、今回、示してもらっている年がひとつの線だろうとは思いますが。それから、今の説明を聞くと、小学校は空調設備も今年度で入れていただきましたが、児童たちの環境としては良くなっていっていますが、次は幼稚園も考えていかんといけないうらなうとなつたときに、その他の色んな工事も考えれば、園児の安全という部分は猶予ができないものなので、1年遅れれば遅れるほど、費用が嵩むということもあります。新しい園舎、校舎を建てる費用は変わらないが、古い建物を維持し続ける、1年遅れれば遅れるほどに財政の負担は増えていく、当たり前のことなので、この間

の議論でも、皆さんそれぞれの意見の中で、小学校は2校、幼稚園は1園と言うのが多かった。それを前に進めていくのであれば、事務局が示されている年度を目指して、早く前に進めていくというのが、やるべきことではないかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。他の方も、いかがでしょうか。

(委員)

本当に、限られた時間しかないとは思いますが、委員がおっしゃったように、色々な面を考えると早めに、この年で建てられるような目標がいいのではないかと思います。町のお金を使うのは同じですから、早くして、新しい方に使う方が良いというのは、当然そう思います。

(委員)

私も、1年でも早くというのは思っているのですが、色々と壊れる箇所になんか少しずつお金がかかっているという実感もあって、幼稚園は今年来年にも直していかないといけないところがたくさんあるので、それも直していただいているんですけど、それも小さいお金ではなくて、それなりのお金で直さないといけなくなってきてしまっているんで、その施設の面もありますし、園児数の面から言っても白方、多度津のことだけでなくっていくので、2020年に向けて、今から考えて動かないといけない、できるだけ早くするべきだと思います。

(委員)

お金の面とか園児数の問題とかありますけど、2020年というのを遅らせることができないないというのは、すごく感じているんですけど、学校のあるべき姿の中に、安全とか災害に対して、そういうことを考えたときに、多度津幼稚園は2年続けて、高潮や川からの水で浸かったり、私たちの想定していない被害も増えています。そういう意味で、今の幼稚園や学校が本当に安全なのかなというのと、どうなのかなというところがあります。町も、対応してくれてはいますけど。

ですので、2020年は遅らせられないし、ちょっとでも早めにしないと怖いかなと感じています。

(委員)

ちょっと私らは、今の学校がどうかと言えるほどの実感が無いのですが。幼稚園も小学校も、子どもたちの安全と言う面で今のままでは、校舎も老朽化しとる、生徒数もどんどん減つとると言うことはわかります。これは、もう決定ということになると、あとは場所ですか。

(会長)

それもありますが、ここでは目標年次はどうか、ということで。

(委員)

あくまでも検討委員としての意見ですので。

(委員)

まあ簡単に言うと、できるだけ早く、ということです。

(委員)

2020年でも、決して早くはない、という気がします。そういうことでも、早くしたほうが。

(会長)

事務局が示されている2020年は、最短のスケジュール見積もってということですが、まだ早くしたらどうかというご意見ですね。少しでも早いほうが、という考えは一致されているかと思います。では、表記はどのようにしましょうか。

(委員)

現実的な話として、来年2018年に入って、もう少し2019年に開園しなさいと答申しても、なかなか物理的に難しい部分があるので、2020年というのがぎりぎりのところですね、予算とか建設期間も含めて。2020年に開園となると、18年19年の2年間しかないわけで、それもすぐに場所が決まって、設計して着工して、間に合うレベルの話ですので、この事務局案でも、すぐ着手して、これが限界というラインですね。

(会長)

少し無理があるということでしょうか。

(委員)

いえ、2020年という目標は、私もよいと思います。ただ、それよりも早い年を設定すると、逆に現実味が欠けてくる部分が出てきます。

(委員)

それで、年次はこれで大体決まると思うのですが、今度、場所を決める時に、検討委員会では「どこ」っていうのは指定しないのですよね。けれども、子どもたちにと

って安全な場所であり、避難場所に指定するのであれば、非難しやすい場所を選定して欲しいなと思います。この間の台風のときに、非難しなさいという勧告を出されていましたが、中学校の一箇所でしたよね。でも、多中へ行くまでには、桜川の横とか、危ないところを通っていかないといけないという地区もありますのでね。危ないところを通らずに行ける、安全な場所を避難場所にしていただけるようにしたいと思います。

(会長)

場所の指定はしませんが、提言の中に入れることは考えられますね。

(課長)

そうですね。今のお話も、明確な場所のことではないので、委員がおっしゃるようなかたちを提言としていただくことも大丈夫かなと思います。

(会長)

ありがとうございます。では、幼稚園は2020年とする。小学校は2022年とするか、あるいは幼稚園に合わせて最短にしてしまうという手もありますが、それは厳しいでしょうか。

(委員)

幼稚園が急ぐのだという意味で、この年にしていますので、財政や建設に要する期間等も考慮して2022年というのがあり得るところかと思います。

(会長)

それでは、幼稚園については2020年、小学校については2022年ということによろしいでしょうか。

(教育長)

いいですか。今、事務局案で出しているのが、小学校についてなんですけれど、2020年代前半という表記か、2022年という年数を出した方が良いのかということなのですが、それについて皆さんはどうお考えでしょうか。今、幼稚園は、皆さんの意見がわかったのですが、2022年という年数を決めてしまうこともひとつですし、2020年代前半という少し余裕を持たすこともできますが。

(委員)

小学校の場合、2校となったときに、2校同時に開校ですか。それとも、1つずついくのですか。

(会長)

同時が良いとは思いますがね。

(委員)

財政的にどうかということを除けば、同時開校が基本でしょうね。ただ、実際にできるかどうかは、懸念がありますが、検討委員会としては同時を想定するということが良いと思います。

(教育長)

今、おっしゃられたことも含めると、前半と余裕を持たせても良い気がします。幼稚園はとても明確なのですが、小学校も早くしないといけません、検討委員会では2校案が大勢を占めていましたが、それを町の執行部のほうに伝えていかないといけない部分もあります。それも含めて考えると、前半という風にしたらよいという気はします。

(委員)

2校にしたときに、たぶん校区編成もすんなり2つに別れますとは行かないかもしれないので、保護者との話し合いとかが、どれだけスムーズに進むかがわかりませんが、ひょっとすると1年や2年の時間をそこで要するのかということも考えておくと、曖昧な部分もいるかと思います。登校とかのこともありますし。

(委員)

1つしかないとなれば、また違いますけど、2つということになったら、あり得ますね。

(委員)

地区の問題も絡むと思いますね。

(会長)

もちろん、こちらが提言したからといって、必ずそのように進むとも限りませんので、明確にしておくということもあってもいいかもしれません。

(委員)

建物の耐用年数が、はっきりとしているのだったら、そこを目標にしなければいけません、子どもの安全を踏まえたとえで、目標年次に余裕を持たせるならそれも良いと思います。

(会長)

ベストは、年数をはっきりさせることだけど、色んな面を踏まえて余裕を持たせると提言にするということで、よろしいでしょうか。

では、そのようにいたしまして、幼稚園は2020年、小学校は2020年代前半ということにしたいと思います。事務局にお返しします。

(課長補佐)

会長、ありがとうございました。では、次回の日程ですが。

(課長)

当然、アンケート結果が議題としているようになりますので、それを含めて12月前半は難しいと思います。ご承知のとおり、町の議会も12月ございますので、中旬以降の日程でお願いできればと思います。

(委員)

アンケートの結果が出ているだけではなくて、本文の内容に盛り込めるようにしないとイケませんね。

(教育長)

アンケートの内容を、答申のそれぞれの章に反映できるところは、反映させて出そうと思います。それを検討していただこうと思います。

(課長)

では、12月19日でいかがでしょうか。では、よろしく申し上げます。

(課長補佐)

どうも、ありがとうございました。これで終わらせていただきたいと思います。

以上、散会